

# 保育者を目指す学生の協同する表現活動を通じた保育環境の役割について

## —児童文化財の作成より—

○居原田 洋子 藪田 弘美  
(美作大学短期大学部) (美作大学)

### 1. はじめに

保育者養成の学生が、保育内容表現の授業において保育教材を作成するための過程を学び、児童文化財の一つである紙芝居の作成を試みた実践を取り上げる。本研究は、学生の創作的な表現授業の取組みによって得られた学生の学びの意識調査、保育環境の役割と保育内容表現との関連について考察をする。この取組みは租税教室推進協議会との連携事業である。

### 2. 方法

#### (1) 対象者

本学児童学科 2 年生の学生 (n=38) を対象とし、6 グループを構成した。

#### (2) 調査期日調査内容

2021 年 9 月 30 日に実施し、質問項目は創作紙芝居の取組みについて伝えたいこと、学んだこと、今後の課題についてであるが、今回は紙芝居を作成して学んだ点を分析することとした。

#### (3) 授業内容

第 1 回目: 租税推進協議会より講話と税に関する紙芝居、映像の視聴、第 2 回目: 紙芝居とは、第 3 回目: 紙芝居と絵本の違いについて、第 4 回目: 紙芝居作成、第 5 回目: 発表する

#### (4) 分析

自由記述は、KHcoder を用いて、文章の単純集計を行った。アンケート結果から書き出した逐語記録から頻出語彙を抽出し、抽出リストを作成した後、共起ネットワーク分析を行い、学生の学びの特色を検討する。

### 3. 結果と考察

本研究での学生の意識調査アンケートから得られた結果は以下の通りである(図 1)

#### ① 全体像について

「子ども」「税金」「言葉」「絵」「難しい」「自分」「セリフ」「登場」「違う」「小さい」といったまとまりを確認できた。「小さな子どもにも「税金」について伝えるために「絵」を描き「セリフ」を決め「登場」「人物」を「考えて」「物語」をつくることは「難しい」と「感じる」が、「絵本」と「違う」特性を「考えて」「工夫」して「伝える」ことを学んだようである。

#### ② 「子ども」を中心に捉えていく

(1) 「紙芝居」のまとまりから「絵」につながっており、造形表現のための支援の基本が捉えられていることが分かる。

(2) 「内容」のまとまりから「税金」につながっており、税のしくみ、税の大切さの知識を子どもたちに「分かる」ように「工夫」して「伝える」ことを学び、幼児理解について 5 歳児の発達段階を考えるきっかけになっていると考えられる。

(3) 「考える」のまとまりから「難しい」につながっており、「難しい」と「感じ」たがに「物語」が「分かる」ように「考える」ことは「大切」であると学んでいる。幼児にとっては難しいテーマではあるが、学生の使用例からも「税については損をしていると思っていたが、税について解釈を深める中で、生活に重要なものだと知った。幼児時期より生活に大切なもの、必要なもの、と教えることはとてもよい」と感想を述べている。

(4) 「作る」のまとまりから、「自分」「今回」「テーマ」とつながっていることより、幼児に伝えるために税金について調べることは、学生本人の学びともなり知識を習得することができた。学生にとってもわかりにくい内容だけに子どもが理解できるような工夫を凝らし、豊かな表現へと広がり、苦勞した分、子どもに理解ができるように共感的態度が生まれたと考えられる。「紙芝居を作るのは初めてで消費税については難しい内容ではあるが、子どもに伝えやすい文章や絵を工夫することを学んだ」といった記入使用例からもみてとれる。

(5) 「分かる」のまとまりから「言葉」につながっており、税金について「身近」にして欲しいというテーマを修得できており、紙芝居を演じる時、子どもに何を伝えるか、ねらいが掴めたと考えられる。

本実践は、税の大切さについて子どもに絵と文で表す困難さを学生自身が感じたからこそ、一つのテーマを伝えることの意義を協同して友達と共有できた。子ども一人一人の発想や表現を尊重するためには保育・教育を目指す学生が柔軟な発想や創造性を身につけることが求められる。以上のように保育環境である保育教材の研究を重ねることは、学生の表現する力を高める一助となったといえる。

今後は、この取組みを通して学生がどのような創作紙芝居を作成したいと意識したか、その内容と環境と表現の関係について探っていきたい。

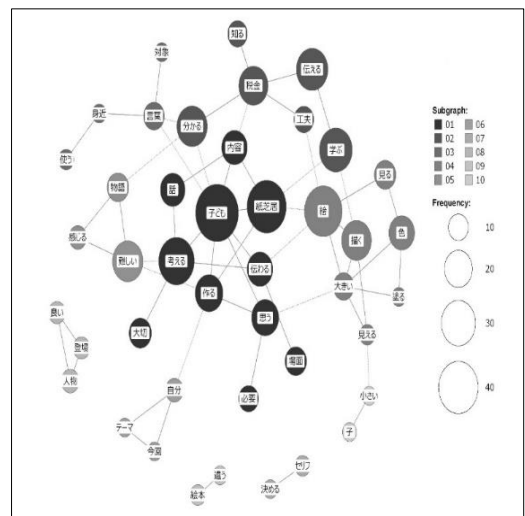


図 1 共起ネットワーク(学んだこと)